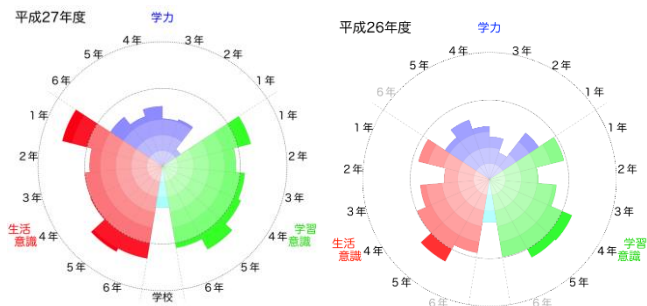


## 1 横浜市学力・学習状況調査からの実態把握



### (1) 分析チャートからの分析

#### ア チャートの傾向

教科の学力は、全学年とも市平均値を下回っているが、4年6年は少し高いことがわかる。26年度かなりの落ち込みを示していた学年が27年度は回復してきた。学習意識は前年度と比べかなり向上している。さらに生活意識も少し高くなりつつあり改善が見られる傾向だといえる。

#### イ 学校質問紙

教科指導は平均より低い値を示している。意識が高い項目は「取組指導」と「授業のサポート」で、中でもボランティアによるサポートと、どの教科においても、言語活動を意識した授業展開実践に力を入れている職員が多い。

#### ウ 児童質問紙調査

今年度は、国語に対する意識は、低学年が高めである。学年によっては算数に対する意識が極端に低く、社会・理科が高くなっている。

### (2) 教科学力及び経年分析

学年や教科によっても異なるが、学年があがるごとに学力が平均から少しずつ大きく下回っていくようになる。昨年度と比べると、どの学年も少しずつ向上してきてはいる。

### (3) 学校の状況・地域の実態

- ・教科書レベルの基本的な内容を理解できている児童とそうではない児童との二つに分かれている傾向がある。
- ・学習に集中することが苦手な児童への対応として、意欲向上と環境作りが必要である。
- ・配慮を要する児童への対応はおおむね十分で、児童理解と保護者とのさらなる連携が今後の課題である。
- ・学校運営協議会、学校教育支援課事業運営委員会が機能しており、おおむね地域との連携を図ることができている。

## 2 今後の方向

### (1) 最優先課題

- ア 学力の幅のある状況において安定した授業のできる授業力の向上
- イ 特別な教育的支援が必要な児童がいる学級に対する授業力、指導力の向上
- ウ 時間割や会議等の精選による研究・研修時間の確保
- エ 学校運営協議会「上中四季小サポーターズ」を核とした、保護者・地域が参画して行う学校運営のさらなる推進

### (2) 学力向上重点目標「中期学校経営方針」（平成28年度～平成31年度）を受けて

- ア 確かな授業力に支えられた課題解決学習の具現化により、基礎学力の定着を図ります。
- イ 一人ひとりの児童のニーズや個の実態に合った、楽しく分りやすい学習を実施します。
- ウ 研究・研修時間を確保し、「自分の思いを表現できる子」の育成をめざし、研究・研修の内容を充実させます。
- エ 昨年度に引き続き、学校と家庭との関係により家庭学習の習慣化を図ります。